

東北南部の 2 月は記録的な高温となりました

東北南部の 2 月の月平均気温は、1946 年以降で 1 位タイの高温を記録しました。

冬型の気圧配置が長続きせず、寒気の影響が小さかったことから、東北地方にある 17 地点の気象台、特別地域気象観測所のうち、東北南部にある 9 地点の観測値を平均した 2 月の月平均気温は平年差 +2.3℃と、1946 年の統計開始以降で 1 位タイの高温を記録しました（これまでの 1 位は 1990 年）。

詳しくは、下記 URL より、「2020 年 2 月の東北地方の天候」をご覧ください。

仙台管区気象台ホームページ 「2020 年 2 月の東北地方の天候」

https://www.jma-net.go.jp/sendai/kouhou/houdou/20/20200302_02TukiGaikyou.pdf

問合せ先：仙台管区気象台気象防災部 地球環境・海洋課

担当：池田・中川 電話：022-297-8177 FAX：022-291-8110

2020年2月の東北地方の天候

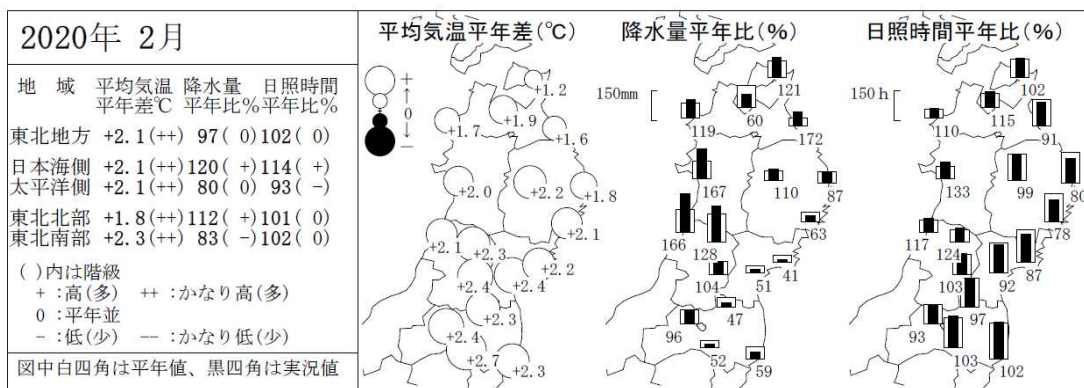
○冬型の気圧配置が長続きせず、寒気の影響が小さかったことから、東北部の月平均気温は2月として1946年以降の高いほうからの1位タイを記録した。

概況

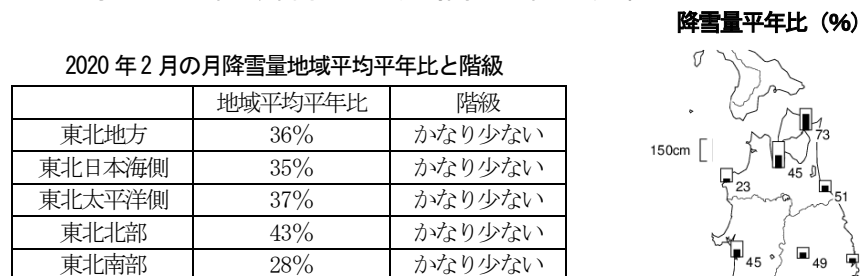
上旬は低気圧や冬型の気圧配置の影響で、東北北部を中心に曇りや雪または雨の日が多かった。中旬から下旬にかけては、冬型の気圧配置が長続きせず、高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わった。上旬の後半は寒気が流れ込んだため、東北地方では気温が平年を下回った。中旬から下旬は、寒気の南下が弱く、暖かい空気が流れ込みやすかったため、東北地方の月平均気温はかなり高くなり、月降雪量はかなり少なくなった。東北南部では平年差+2.3℃と、2月としては1946年の統計開始以降で1位タイの高温となった（これまでの1位は1990年）。地点別の月平均気温は、新庄、酒田、山形、仙台、石巻、福島、白河、小名浜で2月として高い方からの1位（酒田、山形、石巻は1位タイ）を記録した。また、14日の日最低気温は、青森で4.1℃となり2月として高い方からの1位を記録した。

5日から9日にかけては強い冬型の気圧配置となり、東北日本海側を中心に大雪となった所があった。16日から17日にかけては低気圧の影響により、秋田県と山形県では大雨、青森県では大雪となった所があった。18日は低気圧の通過後、冬型の気圧配置が強まり、東北南部や岩手県で大雪となった所があった。23日は強い冬型の気圧配置となり、岩手県、宮城県、山形県の山沿いでは大雪となった所があった。

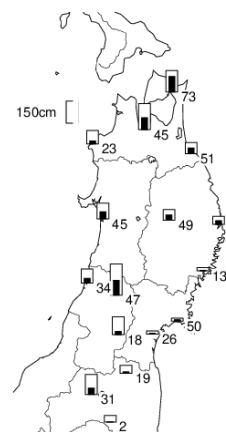
月平均気温はかなり高い。月降水量は東北北部で多く、東北南部で少ない。月間日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で少ない。月降雪量はかなり少ない。



平均気温の平年差、降水量・日照時間の平年比の分布



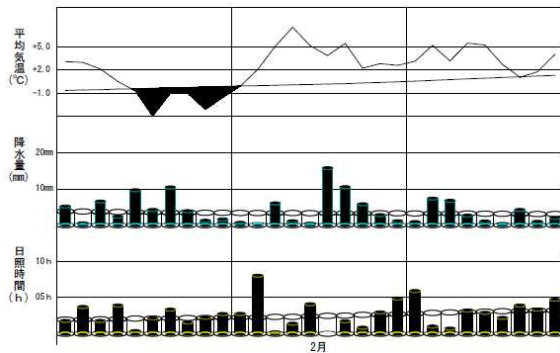
降雪量平年比(%)



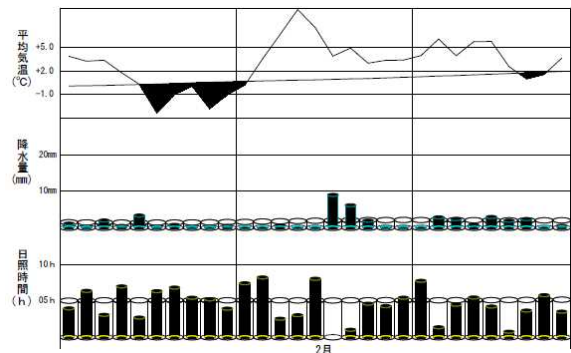
降雪量の平年比の分布

降水量、日照時間、降雪量平年比分布図の凡例について

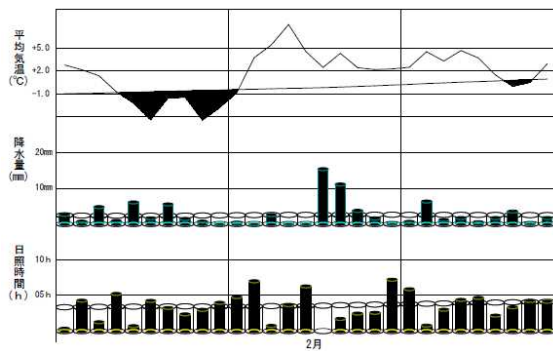
降水量、日照時間、降雪量平年比分布図の各地点の白四角と黒四角はそれぞれ平年値と実況値です。各分布図の左上のスケール(高さ)は、降水量(mm)、日照時間(h)、降雪量(cm)を表します。各地点の数字は平年比(%)です。



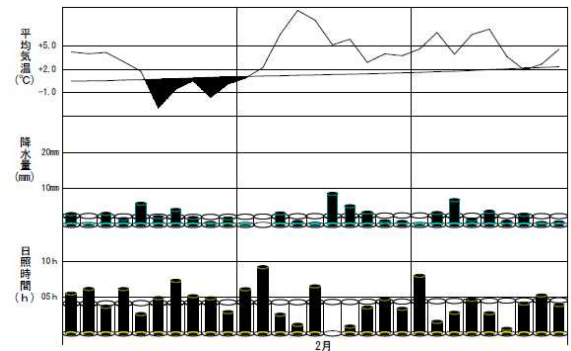
東北日本海側



東北太平洋側



東北北部



東北南部

平均気温、降水量、日照時間の経過

左上は東北日本海側、右上は東北太平洋側、左下は東北北部、右下は東北南部の気象官署の観測値と平年値の地域平均。気温は折れ線が観測値、実線が平年値で、陰影は平年値より低いことを示す。降水量と日照時間は黒円柱が観測値、白円柱が平年値。

注意事項

気候統計値は、東北地方にある17地点の気象台、特別地域気象観測所の観測値より求めています。このうち、降雪量については、小名浜を除く16地点より求めています。(速報値)

細分地域を東北日本海側は青森県津軽・秋田県・山形県・福島県会津、東北太平洋側は青森県下北・三八上北・岩手県・宮城県・福島県中通り・浜通り、東北北部は青森県・秋田県・岩手県、東北南部は宮城県・山形県・福島県としています。

気温の高い・低い、降水量、日照時間、降雪の深さ合計の多い・少ないは、特にことわらない限り平年と比較した階級を表します。平年値の統計期間は1981～2010年です。階級区分は、1981～2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めています。また、値が1981～2010年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には「かなり高い(多い)」「かなり低い(少ない)」と表現します。

2020年2月の極値・順位の更新 (順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。)

月平均気温高い方からの順位更新

順位	地点名	平均気温 ℃	平年差 ℃	これまでの最高 ℃ (西暦年)	開始年	平年値 ℃
1	新庄	1.6	+2.3	1.4 (1990)	1958	-0.7
	酒田	4.0 =	+2.1	4.0 (1990)	1937	1.9
	山形	2.5 =	+2.4	2.5 (1990)	1890	0.1
	仙台	4.4	+2.4	4.3 (1990)	1927	2.0
	石巻	3.4 =	+2.2	3.4 (1990)	1888	1.2
	福島	4.5	+2.3	4.4 (1990)	1890	2.2
	白河	3.5	+2.7	3.4 (1979)	1940	0.8
	小名浜	6.3	+2.3	6.1 (1990)	1911	4.0
3	大船渡	3.2	+2.1	3.3 (1990)	1964	1.1
	若松	2.3	+2.4	3.2 (1990)	1954	-0.1
	青森	1.2 =	+1.9	1.6 (2007)	1882	-0.7
	秋田	2.5	+2.0	3.0 (1990)	1883	0.5
	盛岡	1.0	+2.2	1.3 (1949)	1924	-1.2

月降水量多い方からの順位更新

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最大 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
3	酒田	189.0	166	211.0 (1993)	1937	114.0

月間日照時間少ない方からの順位更新

順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最小 h (西暦年)	開始年	平年値 h
3	大船渡	106.3	78	96.5 (1990)	1964	136.9

月平均気温低い方から、月降水量少ない方から、月間日照時間多い方から、降雪の深さ月合計値多い方から、月最深積雪大きい方からの順位更新の3位以内はありません。

(注) 値の横に「=」がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等、統計に用いなかった値が含まれている(資料不足値)。順位は更新順位以上になることは確実であるが、統計値の使用に際しては気候表に記載した統計日数を参照されたい。
平年値とは1981～2010年の30年間の値を平均したものである。

2020年2月の月気候表

地点名	平均気温(平年差) 階級		降水量(平年比) 階級		降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比) 階級		降雪深さ(平年値) 階級		最深積雪(平年値) 階級	
	(°C)	(°C)	(mm)	(%)		(h)	(%)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)
青森	1.2	(+1.9) +*	66.5	(60) -	17	80.2	(115) ○	80	(176) -*	31	(107) -*
深浦	1.8	(+1.7) +*	92.5	(119) +	14	51.1	(110) ○	21	(92) -*	7	(41) -*
むつ	0.0	(+1.2) +	100.0	(121) +	15	93.5	(102) ○	104	(143) -	28	(62) -
八戸	1.1	(+1.6) +	69.0	(172) +*	10	118.3	(91) -	38	(75) -	17	(21) ○
秋田	2.5	(+2.0) +*	148.5	(167) +*	19	83.0	(133) +	49	(108) -	24	(32) ○
盛岡	1.0	(+2.2) +*	53.5	(110) ○	13	126.6	(99) ○	36	(74) -*	16	(35) -*
大船渡	3.2	(+2.1) +*	28.5	(63) ○	9	106.3	(78) -*	3	(23) -*	1	(9) -*
宮古	2.2	(+1.8) +*	52.0	(87) ○	9	121.7	(80) -	26	(55) -	12	(26) -
仙台	4.4	(+2.4) +*	19.5	(51) -	5	140.3	(92) -	6	(23) -*	6	(11) -
石巻	3.4	(+2.2) +*	14.5	(41) -	5	141.9	(87) -	10	(20) -	8	(12) ○
山形	2.5	(+2.4) +*	65.0	(104) ○	12	101.8	(103) ○	22	(125) -*	7	(45) -*
新庄	1.6	(+2.3) +*	177.5	(128) +	22	71.3	(124) +	103	(217) -*	43	(120) -*
酒田	4.0	(+2.1) +*	189.0	(166) +*	23	69.4	(117) +	33	(98) -*	14	(26) -
福島	4.5	(+2.3) +*	21.0	(47) -	7	137.6	(97) ○	11	(57) -*	8	(17) -*
若松	2.3	(+2.4) +*	68.5	(96) ○	13	91.8	(93) -	44	(142) -*	14	(48) -*
白河	3.5	(+2.7) +*	20.0	(52) ○	4	157.6	(103) ○	1	(47) -*	1	(15) -*
小名浜	6.3	(+2.3) +*	34.0	(59) -	7	181.0	(102) ○	()	()	()	()

(注) 1. 平年値は1981～2010年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+ : 高い (多い) ○ : 平年並 - : 低い (少ない)

各階級の区分値は、1981～2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる (各階級が10個ずつになる) ように決めた。

また、値が1981～2010年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「+」に*を付加した。この場合には

かなり高い (多い) かなり低い (少ない)

と表現できる。

また「降雪の深さ」と「最深積雪」の「階級」は平年値が「1cm」以上の場合のみ表示した。

3. 値の横に「や」がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ (日別値) に欠測等が含まれていることを示す。) 付きの値 (準正常値) は通常のものと同様に扱うことができるが、] 付きの値 (資料不足値) については、統計に用いる観測資料数が不足しているため、値の下に記載した統計日数 (統計に用いた、品質が十分な日別値の数) を参考にして使用されたい。

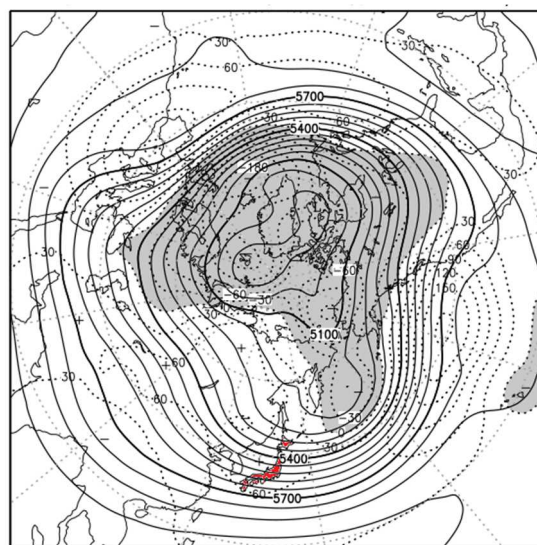
なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

循環場の特徴

500hPa 高度は、北極付近の高度が平年より低い一方で、日本を含む中緯度帯は高度が高かった。また、偏西風は日本付近で北へ蛇行する流れとなっていた。このため、日本付近には寒気が流れ込みにくく、暖かい空気に覆われやすかったが、ベーリング海で高度が低く、北日本では寒気の影響を受けた時期があった。

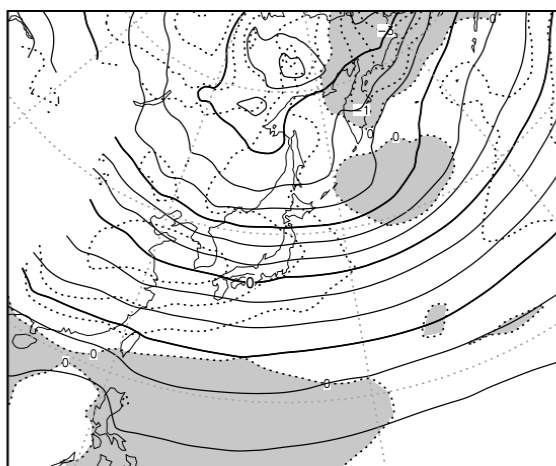
850hPa 気温は、千島列島からベーリング海にかけて平年より低い一方、日本付近は平年より高く、北からの寒気の南下が弱かった。

海面気圧は、アリューシャン近海で平年より低かったが、日本付近では平年より高く、冬型の気圧配置が長続きしなかった。



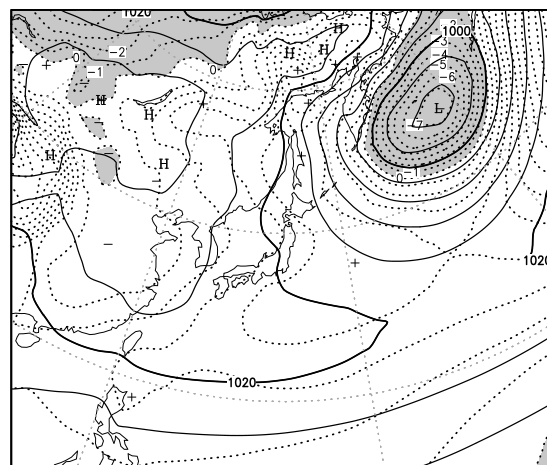
2020年2月の平均500hPa高度

実線は高度(m)、間隔60m。点線は偏差(m)、間隔30m。陰影は負偏差で一般に寒気に対応し、白抜きは正偏差で一般に暖気に対応する。



2020年2月の平均850hPa気温

実線は気温(°C)、間隔3°C。点線は偏差(°C)、間隔1°C。陰影は負偏差で寒気に対応し、白抜きは正偏差で暖気に対応する。



2020年2月の平均海面気圧

実線は海面気圧(hPa)、間隔4hPa。点線は偏差(hPa)、間隔1hPa。陰影は負偏差、白抜きは正偏差。